

機関紙 News Release

ニュース リリース

発行日 2015-6-25

第 1 4 号

発行者 大仙市手をつなぐ育成会

発行責任者 会長 柴田 貞二

TEL 0187-65-2525

事務局 〒014-0802

大仙市弘田字念仏谷地27-1

新田亮子 TEL 0187-69-3108

平成27年度大仙市手をつなぐ育成会総会



平成27年度

大仙市手をつなぐ育成会総会

議 案 書

と き 平成27年4月9日 (木)

午前10時から

と ころ 大曲広域交流センター

総 会 次 第

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 議 事
 - 1) 平成26年度事業報告および収支決算の承認について
会計監査報告
 - 2) 平成27年度事業計画(案)および収支予算(案)の承認
について
 - 3) 規約一部改正について
4. その他
5. 閉 会

【研修会】 「育成会に関する最新の情報」

公益社団法人 秋田県手をつなぐ育成会

会 長 谷 内 和 夫 氏

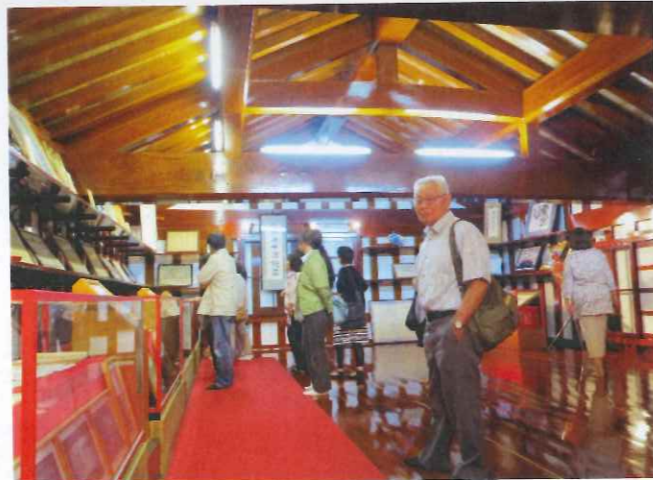
平成27年度大仙市手をつなぐ育成会総会が左記の日程で開催されました。来賓として大仙市健康福祉部次長兼福祉事務所長の大屋敷忠之氏と社会福祉法人大仙市社会福祉協議会会長の伊藤 稔氏の出席を得て会員皆様に励ましのお言葉を頂き感謝申し上げます。

大仙市各地区から35名の会員と委任状による出席者が20名、合計55名の出席者を得て開催されました。飛澤事務局の進行のもとに議事が進められ、各議案ともご承認を得たことに感謝申し上げます。毎年度総会終了後に行われている情報交換今年度は公益社団法人秋田県手をつなぐ育成会会長谷口和夫氏をお招き「育成会に関する最新の情報」と題して1時間の研修会を開催しました。又、県事務局長の交代が有り、舟木新事務局長は県内初の出張になりました。

議案 第1号 平成26年度はどんな事業をしたのかなあ!



平成26年4月10日(木)大曲広域交流センターにて総会を開催しました。会員の出席者は委任状を含めて57名でした。



平成26年6月12日(木)視察研修「増田の蔵」を見学しました。参加者は21名でした。



平成26年8月31日(日)湯沢市文化会館にて第56回手をつなぐ育成会秋田県大会(湯沢・雄勝大会)が開催されました。大仙市手をつなぐ育成会からの参加者は20名でした。



平成26年度の交流・親睦大会は平成26年10月23日(木)奥羽山荘にて開催しました。参加者は18名でした。



秋田県手をつなぐ育成会県南地区協議会、平成26年11月6日大仙市中央公民館にて開催しました。大仙市からは16名の参加者でした。



本人活動支援事業、平成26年度も認可になり平成26年11月22日(土)仙北ファミリーボウルにて開催しました。全体で40名の参加者でした。

平成26年度の収支決算額はいくらかなあ!

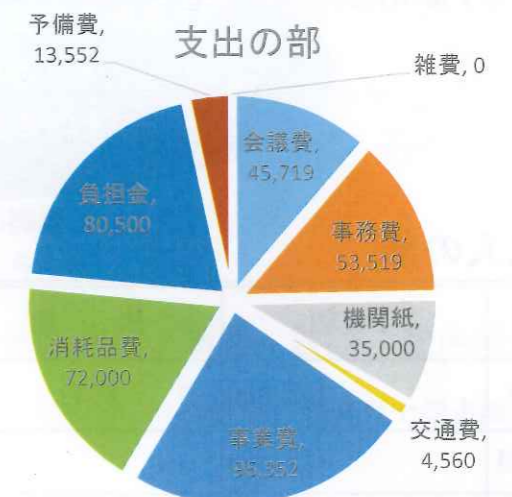
・収入の部

項目	決算額	摘要
会費	140,000	70名
賛助会員	57,000	16名、2社
繰越金	18,806	前年度より
助成金	135,000	大仙市、社協
事業参加費	72,000	各事業参加者
雑収入	5,012	利子他
合計	427,818	



・支出の部

項目	決算額	摘要
会議費	45,719	理事会・総会
事務費	53,519	消耗品・通信費
機関紙	35,000	印刷代
交通費	4,560	県総会
事業費	96,352	研修・交流会他
消耗品費	72,000	昼食代
負担金	80,500	県育成会・社協
予備費	13,552	弔電他
雑費	0	
合計	401,202	



収入総額	427,818円
支出総額	401,202円
差引金額	26,616円
次年度繰越金	26,616円

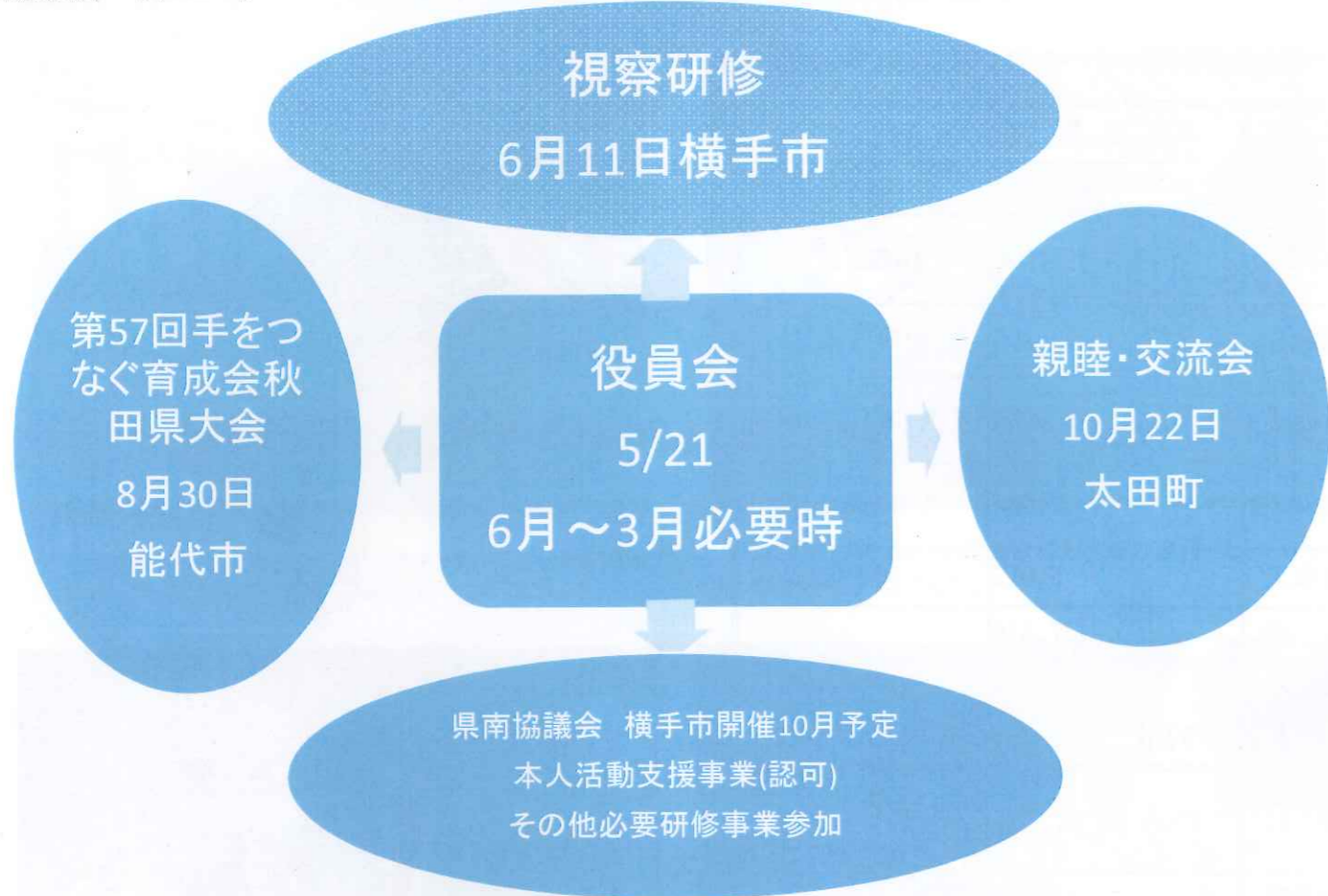
平成25年度会計監査報告

平成27年3月19日、会長、会計係立会いの上に、平成26年度会計決算について会計帳簿、貯金通帳、現金の監査をしたところ正確かつ適正に処理されていたことを確認しましたので報告いたします。

監事 高橋 哲美

監事 進藤 功

上記議案、議案第1号として承認されました。



・収入の部

・支出の部

項目	予算額	摘要	項目	予算額	摘要
会費	138,000	69名	会議費	45,000	5回役員会
賛助会員	18,000		事務費	50,000	郵送、コピー等
繰越金	26,616	26年度繰越	機関紙	35,000	印刷インク代
助成金	140,000	市、社協	交通費	4,500	
事業参加費	50,000	会員参加費	事業費	100,000	
雑収入	384	利子他	負担金	80,500	県育成会・社協賛助
合計	373,000		消耗品費	50,000	
			予備費	7,000	
			雑費	1,000	
			合計	373,000	

地区別会員数

地区	人数	地区	人数	地区	人数	備考
大曲地区	24名	神岡地区	5名	南外地区	1名	賛助会員
中仙地区	17名	太田地区	6名			県外 1名 県内 17名
西仙北地区	7名	仙北地区	9名	合計	69名	合計18名

議案 第3号 規約一部改正の件

規約第2条 (旧) 全日本手をつなぐ育成会 → (新) 全国手をつなぐ育成会連合会に改正する件

上記議案、議案第2号、議案第3号として承認されました。

研 修 会

演 題 「育成会に関する最新情報」

講 師 秋田県手をつなぐ育成会 会長 谷内和夫氏

平成27年度、総会時の研修会内容を変えました。従来であれば「健康に関する事柄」を題材した内容が多かった。今年は真面目なお話になります会長の谷内氏の招へいです。全国手をつなぐ育成会連合会・フォーラムからの情報になります。お話された概略を記載しました。



◎ 障害福祉サービスの在り方

1. 常時介護を要する障害者等に対する支援

現状・・・家族と同居・高齢化による支援手薄

方向・・・地域での仕組必要・ヘルパーの活用変化・サービス利用計画の成熟・国の制度身近に活用

※ 現状では、まだまだ家族による支援のみである。

2. 障害支援区分

・「程度」区分の割り引かれた状況については改善された。

日常を一場面切り取り、その時点の評価でなく長い期間の状態、対応可能な支援が届くよう

3. 意思決定支援

・基礎研究が進んでいる。「本人の暮らしの意向」が一貫して位置づけられているよう

4. 成年後見制度の利用促進

・意思決定支援で重視される本人の主体性を踏まえた権利擁護となること

・「身上監護」の拡充を含んだ利用者主体の制度となるよう

5. 意思疎通に支障がある障害者に対する支援(手話通訳、聴覚、言語、音声機能)

・漢字にルビ、カタカナ又はひらがなで表記、文章の長さ・見やすさ・文数字、カタカナ語書換え等

・選挙公報、候補者情報の提供や投票場における支援

6. 高齢の知的障害者に対する支援

・認知機能:大人になる前段階から機能の低下が見られ、さらに低下していく

・生活経験:大人としての標準的な生活体験の多くを持たない。教育経験なし

・意思決定:重大な意思決定の機会が殆ど無い。他者からの保護的な生活で代理決定の場合が多い

・早い高齢化:10~20歳位、心身の老化が早い

・個人差:知的障害は多様で高齢化による状態も多様。中でも認知症の顕在化は見過ごされ易い

[介護保険サービスとの適合性]について・・・(今話題の65歳から)

平成17年 厚生労働省 通知がありました。

「65歳以上の知的障害者も原則、介護保険が優先。然し、一律介護保険優先でなく、市町村には障害当事者へ聞き取り等、適切な判断が求められる。」・・・市町村の裁量による判断と見るか

・活用し易い全国共通の対応方法が必要

○ 総合支援法の守備範囲を広げる方向か

○ 高齢のため必要になった障害者への新たなサービスを創設するか

・相談支援専門員とケアマネジャーの調整機能が求められる

◎ 地域生活支援拠点について

1. 議論の背景

- ・ 総合支援法の付帯決議(国会からの「宿題」)

「障害者の高齢化・重度化や「親亡き後」をふまえ、彼らの地域生活支援を更に推進する観点からケアホームと統合した後のグループホーム、小規模入所施設等を含め、地域における居住の支援等の在り方について早急に検討を行うこと」

2. 地域における居住支援に関するニーズについて

- 地域での暮らしの安心感の担保
- 親元から自立を希望する者に対する支援
- 施設・病院等からの退所・退院等、地域移行の推進
- 医療ケア、行動障害支援等、専門的な対応を必要とする者への支援
- 医療との連携等、地域資源の活用
- 夜間も利用可能なサービス、緊急対応体制
- 障害特性に応じた施設整備

3. 地域における居住支援に求められる機能について

- ・ 求められる機能
 - 相談(地域移行、親元からの自立)
 - 体験の機会・場(一人暮らし、グループホーム等)
 - 緊急時の受け入れ、対応(ショートステイの利便性・対応力向上等)
 - 専門性(人材の確保・養成、連携)
 - 地域の体制つせくり(サービス拠点、コーディネーターの配置等)

4. 地域における居住支援のための機能強化

- ・ 多機能拠点整備型
 - A 小さめ入所施設に機能併設タイプ・・県内全体で調整が不可欠
 - ・ 「小規模入所施設(30名)」を拠点
 - 安心生活支援事業～安心コールセンター、短期入所、重度対応の通所、看護・ヘルパーST併設
 - B 大きめグループホームに機能併設タイプ
 - ・ 定員特例のグループホーム(20名)を拠点
- ・ 面的整備型
 - C 既存事業所による機能分担タイプ
 - ・ 既存事業所の活用～短期入所事業が定員5名増・・相談支援事業所が地域定着支援を行う

5. 議論のポイント

- ・ ニーズはしっかり集約されているか?
- ・ 地域の現状は把握できているか?
- ・ 障害のある人の自身の意思はどうか?

「変わらない支援」～ 本人に寄り添った支援、地域生活の推進
 「変わる 制度」～ 措置→支援費→自立支援法→総合支援法

以上の内容が谷内会長からの研修内容になります。教師の経験からか会員皆様に分かりやすく、しかも丁寧にお話されました。会員皆様の納得した表情から、意義ある研修会であったことに感謝申し上げます。特に「地域生活支援拠点」については、6月11日に予定している「大仙市育成会研修会」のテーマとして予備知識を得た機会でした。

視察研修会開催

平成27年度、視察研修会を6月11日(木)横手市赤坂仁坂にありますNPO法人「太陽の園」に出掛けました。二年越しの計画が実現しました。会員参加者が30名を超え、会員皆様の関心の深さが理解されます。



「地域生活支援拠点」になるでしょうか、障害福祉サービス事業として「太陽の園」が地域生活支援事業として活躍しています。生活介護、就労継続支援B型を対象に20名の定員にて活動しています。ポリバック作業、干しいたけ製造と利用者は笑顔で元気で輝いていました。



「太陽の園」事業所の目の前にグループホーム「すまいる」がありました。定員が7名であるとのこと。小さめ入所施設に機能併設タイプに分類されるでしょうか。利用者の皆さんは「太陽の園」へ出勤です。室内は一人ひとりの個室に



一日の作業時間割りと作業内容等の手順が表示されていました。今日の作業は「ポリバック作業と干しいたけ製造です。園長先生は熱血指導員の印象です。平成9年に小規模作業所発足に向けて行政への提案から5年越しに「太陽の園」開所された。以後関係機関に就労支援実習体験等の支援ムサービスに関する事業等が実を結び現在の「太陽の園」が出来上がった事等詳しく説明を受けました。「太陽のように明るく、笑い声の絶えない施設づくり」印象深い言葉でした。



大仙市手をつなぐ育成会

入会のご案内



障がい（児）者をもつ保護者として、悩みや要望を語り合ったり
福祉の増進のために活動する仲間になりませんか！

りねん 「利用者が一番のプロは私達 未来を作る出会いに夢を持つ」

◎ 会員 大仙市に住む障がい（児）者の保護者 ◎ 賛助会員 この主旨に賛同する方 地域問わず

◎ 年会費 2000円以上（会員・賛助会員同額）

◎ 入会申込先 会長 柴田貞二 TEL0187-65-2525 ◎ 事務局 新田亮子 TEL0187-69-3108

※ 入会の申込者には入会申込書、振込み用紙を送ります。

賛助会員名

細谷洋造 様	鎌田英壽 様	福岡恵子 様
武田雄平 様	茂木建設(株) 様	児玉裕子 様
渡部英治 様	泉 繁 夫 様	高橋輝明 様
佐藤芳郎 様	加藤麻理 様	中野昭満 様
小林勝征 様	樫尾 茂 様	千場洋子 様
古谷武美 様	村上哲郎 様	佐藤育男 様

左記の方々が平成26年度から27年度に掛けての大仙市手をつなぐ育成会(以下、育成会という)賛助会員の皆様です。皆様のご支援によって育成会が正常な形で運営されている事に感謝申し上げます。平成27年度も引き続きご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

遠くは青森県から、美郷町、横手市、湯沢市、秋田市、大仙市と地域を問わずご支援を頂いている事にも感謝申し上げます。

育成会では年2回の機関紙発行にて皆様へ情報をお届けするのが推一、温情に報いる方法であると思っています。愛読のほどお願い申し上げます。

大仙市知的障がい者相談員

飛澤ヒロ子(小貫高畑)	0187-62-3715	三浦ミサ子(鍵見内)	0187-56-2299
進 藤 功(六郷西根)	0187-65-2622	藤原正人(協和船岡)	018-893-2139
工 藤 正 悦(北檜岡)	0187-72-3333	新田亮子(払田)	0187-69-3108
佐々木文雄(大沢郷)	0187-78-1656	高橋哲美(太田町)	0187-89-1139

※ 在宅支援や障がいのある方の身近な相談役として活動しています。秘密は厳守しますので、普段の生活のことや障がいのことなどをご相談ください。なお、相談員に関することは生活支援課に問い合わせ下さい。
大仙市生活支援課 TEL0187-63-1111(内線162番)

※ 秋田県手をつなぐ育成会・H・Pアドレス <http://www.akita-ikuseikai.jp/>

編集後記

平成27年度、最初の機関紙発行になりました。記載される内容も今じゃ代わり映えの無い内容になりました。その中で総会時の「研修会」に注目すべきでしょう。秋田県手をつなぐ育成会も公益法人として機構改革から2年が経過しました。その活動も運動体として一人前になったと太鼓判を押したい。谷内会長の講演は公益法人としての研修会であったと理解しました。会員皆様が快く聴衆された姿こそ、招へいた価値がありました。賛助会員の皆様には今年度もご支援のほどお願い申し上げます。第57回手をつなぐ育成会秋田県大会が8月30日(日)能代市文化会館にて開催されます。育成会では大仙市福祉バスを利用して参加する予定です。申し込み期日7月31日になっています。都合の尽く方は賛助会員問わず、参加者をお待ち申し上げます。 Teiji shibata